鎌倉時代の新しい仏教（広まった相手と理由）

鎌倉時代、なぜ新しい仏教が武士や民衆に広まったのか

社会の背景

戦乱
武士の争いが続く

ききん
作物がとれず、食べ物が不足

災害
地震などが起こる

↓

人々の不安が大きくなり、心のよりどころを求める人が増えた

念仏・題目を唱える教え

「南無阿弥陀仏」（念仏）や「南無妙法蓮華経」（題目）を唱えれば救われると説いた。

- **浄土宗**（法然）
- **浄土真宗**（親鸞）
- **時宗**（一遍）
- **日蓮宗**（日蓮）

→

広まった相手



民衆（農民・商人など）　武士

武士や民衆に広まった。難しい学問や修行はいらないと説かれた。

座禅を組む教え（禅宗）

座禅によって、自分の力で悟りを開こうとする。
宋（中国）から伝えられた。

- **臨済宗**（栄西）
- **曹洞宗**（道元）

臨済宗は、鎌倉幕府が保護した。

→

広まった相手



武士

主に武士に広まった。きびしい修行が、武士の気風に合ったとされる。

それまでの仏教と比べると

奈良・平安時代の仏教（中心だったもの）
国の平安を祈る。朝廷や貴族が寺を建て、祈とうを行う。僧は寺で学問や修行を重ねる。

鎌倉時代 →

鎌倉時代の新しい仏教
唱える・座禅を組むなど、一つの行いにしぼって説き、武士や民衆にも信仰が広まった。

※ 教えの内容は各宗派が説いたことの要点で、よしあしを示すものではない。広まった相手は大まかな傾向。人物は記号。